

白川町・東白川村 地域公共交通計画(素案)

<概要版>



■計画の背景

白川町と東白川村は、地域自らが公共交通の確保、維持に参画し、地域・事業者・行政が三位一体となり地域公共交通を「つくり」、「守り」、「育てる」ことを基本方針とした地域公共交通網形成計画を2018年に策定し、高校生の通学手段の確保、地域内のどこからでも利用することができる「おでかけしらかわひがししらかわ」の運行を開始しました。

つくりあげた地域公共交通を発展させ、地域内の様々なコト、多様な分野と連携することで相互に持続可能なしくみづくりを推進するため、地域公共交通計画を策定します。

■計画の期間

本計画の期間は、2024年(令和6年)～2028年(令和10年)の5年間とします。

地域公共交通ネットワークと輸送資源の現状



	主な役割	利用方法	運行内容	利用料金
定期バス	大量・長距離輸送に適しており、主要拠点をむすぶ基幹となる手段	バス停 (予約不要)	定時定路線 ・白川中央線(平日のみ) ・白川東白川線(毎日)	100~200円
予約制バス	各地区便 (オンデマンド乗合)	電話予約	定期バスへの接続を基本とし、地区内運行を原則 ・白川白北地区 ・蘇原地区 ・黒川地区 ・佐見地区	ゾーン内 200円 ゾーン外 400円
	JR接続便	【高校生】 ネット予約 【一般】 電話予約	地区と駅間を直通運行 ・駅着 7時台(毎日) ・駅発 17時台(毎日) 18時台(平日のみ) 19時台(平日のみ)	200円
福祉有償運送 《白川町》	一人で公共交通機関を利用できない身体に障がいのある方や支援の必要な方を対象として、福祉車両を使って自宅から目的地(病院や買い物先など)までの移動を支援する手段	電話予約	町民専用 個別対応 【東白川村、下呂市金山町】 医療機関、福祉施設、公共施設、商店、金融機関 【七宗町、川辺町、八百津町、坂祝町、富加町 美濃加茂市、可児市、御嵩町、下呂市(旧下呂町)】 医療機関、福祉施設に限る	町内(15km未満) 400円 町内(15km以上) 500円 町外 1,000~2,000円
外出支援事業 《東白川村》	一般の交通機関の利用困難な高齢者等を、移送用車両を用いて、外出支援の援助を行う手段	事前登録のうえ、電話等による事前申し込み	村民専用 乗合送迎 【村内】 診療所通院、買物、教室送迎 【村外】 中核病院通院、透析通院	無料

地域公共交通ネットワークと輸送資源の現状



区分	車両台数	運転手登録数	
● 定期バス	中型(56人乗り)2台 小型(27人乗り)1台 小型(28人乗り)1台	3名 週2回2名下呂営業所から応援有り	60代 1名 40代 1名 30代 1名
● 自家用有償旅客運送自動車	ハイエース 7台 スクールバス 8台 小型(29人乗り)4台 中型(33人乗り)1台 中型(45人乗り)1台 中型(54人乗り)1台 大型(72人乗り)1台	30名	70代 9名 60代 10名 50代 1名 40代 9名 30代 1名
● 福祉有償運送自動車	福祉車両(10人乗り)2台 福祉車両(5人乗り)1台 福祉車両(軽自動車)3台	12名	60代 6名 50代 2名 40代 2名 30代 1名 20代 1名
● 外出支援車両	福祉車両(7人乗り)2台 ハイエース1台	4名	60代 2名 40代 1名 20代 1名

- ◆おでかけできる交通網ができたことにより、高齢者等の通院や買い物、高校生の自宅通学に対する支援が可能となった。
- ◆病院の送迎車両や小中学生の送迎用スクールバスといった輸送資源を、地域公共交通サービスに位置づけたことにより、多様なニーズに対応できる仕組みができています。
- ◆運転手不足が全国的に問題となっているが、白川町東白川村の交通網ではその傾向は無く、安定して運転手が確保できている。

将来像、あるべき姿から見た問題と課題

《将来像》



《白川町・東白川村地域公共交通》

あるべき姿

地域での暮らしを守り、暮らしを豊かに

～資源を有効に活用した地域公共交通サービスの充実～

問題(“あるべき姿”と現状の差)と課題(解決するために取り組むこと)

白川町と東白川村という地形的な要因や社会情勢、交通状況による問題と、地域公共交通に関する利用者アンケートや住民懇談会の結果から得た問題の要点を以下に整理します。

白川町と東白川村の問題点①

社会情勢

- ・人口減少と高齢化率の増加
- ・町村内店舗の減少

団塊の世代が、後期高齢者に差し掛かり、支える世代が先細りとなっているため、地域や家族での支援が困難になってきている。

支え合いが希薄化することで、無理をして自家用車を運転する高齢者の増加が危惧される。

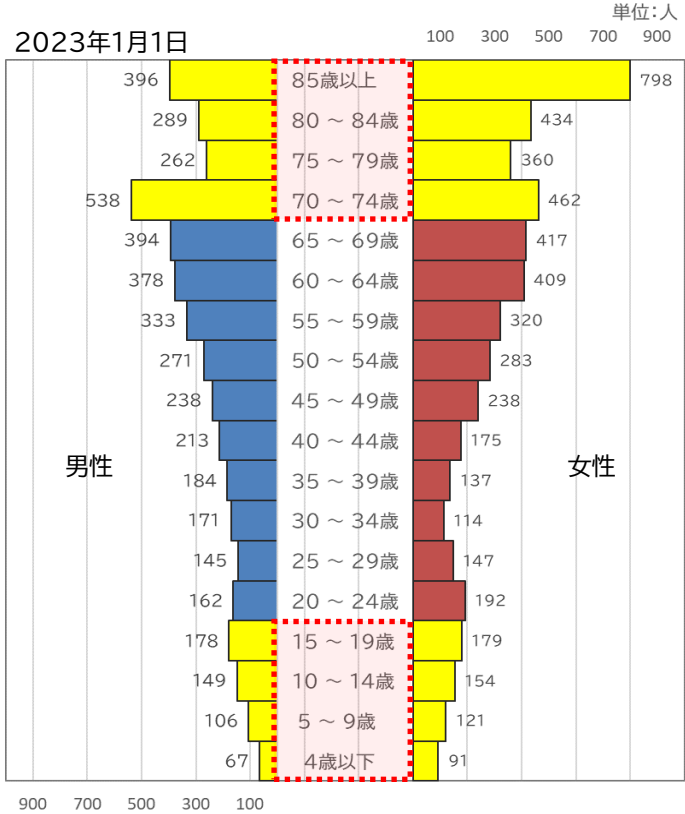
地理的状況・交通状況

- ・地区間の移動に時間を要する
- ・主要道路の雨量通行規制有り

地区と地区が離れており、各地区内で日常生活に必要な移動が満たされない。

雨量通行規制による運休等の利用者への連絡手段がない。

人口ピラミッド(白川・東白川)



道路名	種別	通行禁止(通行規制)		規制される区間
		連続雨量	時間雨量	
国道	41号	150mm	※2時間 60mm	七宗町檜原 ～白川町河岐 11.4km 白川町坂ノ東 ～下呂市金山町 12.5km
県道	下呂白川線 (国道256号)	120mm	60mm	白川町和泉 ～東白川村 19.8km ※東白川村地内 国道256号含む
白川福岡線		120mm	60mm	白川町三川 ～黒川 10.3km

将来像、あるべき姿から見た問題と課題

白川町と東白川村の問題点②

現行の地域公共交通における問題

【交通事業者、行政からみた問題点】

- ・地域公共交通の認知度の低さ
- ・16時以降に走らせられる予約制バス車両が減少(小中学校の下校時間帯)
- ・地域公共交通の運行経費に対する否定的な意見
- ・他業種、他分野との結びつきの弱さ
- ・運行体制、サービス改善に必要なデータ収集手段が脆弱
- ・高齢者の予約手段が電話しかないため耳が悪い人が利用できない
- ・町村間の移動手段が限られていて気軽におでかけできない
- ・来訪者の白川口駅から目的地までの行き方がわかりづらい
- ・福祉有償運送業務における稼働時間が短く、運転手の確保が困難(時間で依頼)

【利用者・住民から見た問題点】(アンケート、懇談会より)

- ・蘇原地区の三川は白川地区まで近いがマツオカでの乗り換えが必要
- ・乗り換えが生じないタクシーサービスを望む声が多い
- ・通院や通学、買物といった移動しか使えないと思われる
- ・高齢になり運転が心配にもかかわらず免許返納ができない
- ・村内は移動サービスが充実しており問題はないが、今から将来の公共交通について議論が必要
- ・町村間の移動手段が限られており気軽におでかけができない

白川町東白川村地域公共交通
のあるべき姿

白川町と東白川村の課題

課題1 白川町東白川村地域公共交通の仕組みを正しく伝え、理解を深める。

- ・多少の不便を分け合うことで多くの住民の暮らしを守る
- ・様々なコトと結び付けを行い利用促進を図り認知度を上げることが急務

課題2 安心して安全な暮らしを続けられるための地域公共交通サービスの充実

- ・高校生が当たり前で地域で暮らせる地域公共交通の確保
- ・マイカー一定年後の暮らしを家族や地域とともに支える仕組みづくり
- ・移動が困難な人の暮らしに寄り添い支える福祉有償運送サービスの充実

課題3 資源を有効に活用して、移動範囲の拡充と多様なニーズに対応

- ・町村の垣根を越えた公共交通サービスの相互利用により移動範囲を拡充
- ・地域内資源の総動員かつ最大限の活用により多様なニーズに応えられる体制づくり

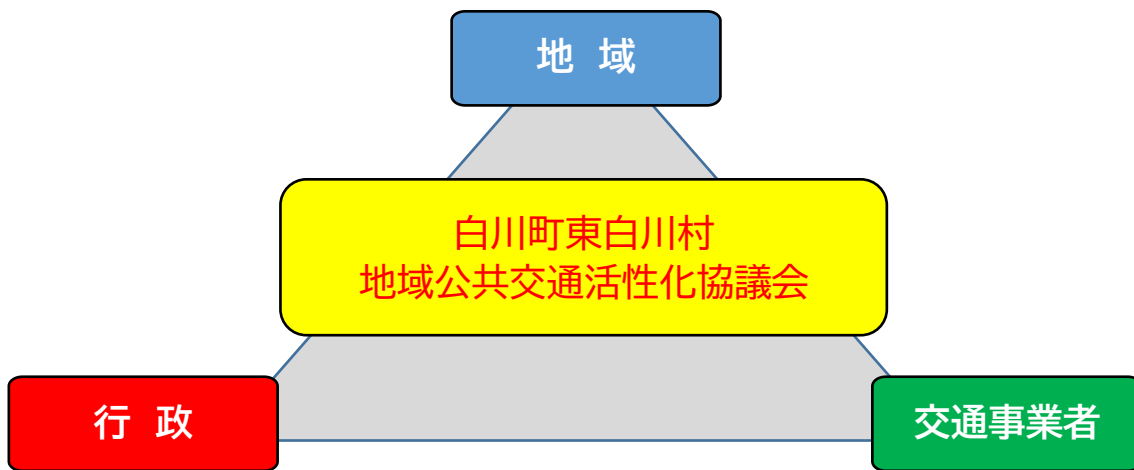
計画の指標と推進体制

先ほど述べた課題を解決できたか評価するための数値指標を以下のように設定する。

《数値指標 目標値》

評価の視点	指標	現状 2023年	目標 2028年
利用者にとってわかりやすく使いやすい地域公共交通サービスとなっているか	① 公共交通年間利用者数 地域公共交通計画の「標準指標」 定期路線バス、予約制バス及びJR接続便の利用者数	53,123人	54,000人
	② 75歳以上の免許保有率 2023年岐阜県警(加茂警察署)の保有資料に基づき、現状以下を目標値とする。	47.6%	現状以下
	③ 自宅からの通学を希望する高校生の自宅通学率 2023年白川町公共交通に関する高校生アンケートで自宅から通学している生徒のうち、現在の通学方法に満足していると回答した人数の割合の維持を目標値とする。	90%	90%
	④ 地域公共交通の認知度 ◆ 定期バス ◆ 予約制バス ◆ JR接続便 2023年白川町公共交通に関するアンケートによる区分に応じた認知度を基にし、様々な手法により制度の周知が十分できたかを計るもの。	24.6% 82.7% 77.9%	80% 100% 80%
公共交通に対して、資源を有効に活用した支援となっているか	⑤ オンデマンド乗合交通の1便当たりの乗合率 ※白川町のみ 様々なコトと地域公共交通の結びつきが増えることにより、乗合交通が浸透し、利用促進となっているかを計るもの	-	2以上
	⑥ 公共交通の公的資金投入額(住民一人当たり) ※白川町のみ 町村内の輸送資源を有効に活用しながら、投資を抑制しつつ、サービスが充実しているかを計るもの 町費投入額(年度)/人口(4月1日現在)	8,963円	1万円以内

地域・交通事業者・行政が三位一体となり事業の推進を図り、計画の進捗管理、検証及び評価を随時行っていきます。



《計画事業の検証と評価》

	令和6年度				令和7年度以降		
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月
白川町東白川村地域公共交通活性化協議会	前年度実績	次年度計画		今年度中途			
事業の実施	[Blue arrow spanning from April to October]						
事業の検証・評価	●	●		●	●		
事業の見直し			改善	[Yellow arrow]			改善

基本方針と事業施策

基本方針①

地域公共交通の利便性向上

JR、路線バス、予約制バスの連携はもちろんのこと、他分野における既存の交通(輸送資源)を活用した新たなネットワークの構築や、デジタル技術を活用した予約方法の拡充、利用者との連絡体制の構築やデータを蓄積することで、よりよいサービスに繋げていくことを目指します。

《具体的に取り組む施策(手段)》

●白川町三川地区のゾーン見直し 実施主体:交通事業者、行政(白川町)

三川地区を白川白川北地区及び蘇原地区の重複ゾーンとし、路線バスの運行について検討を行う。

●ノーマイカー入学推進 実施主体:警察、加茂地区交通安全協会、行政(白川東白川)

高齢者の安全運転講習と送迎負担に対する不安を軽減するため、家族に対して公共交通の利用説明をすることにより「公共交通+家族支援」でノーマイカー入学を後押ししていく。入学式や学習会など、地域公共交通を初めて使う人たち向けのプログラムを企画していく。

●高校時刻表の作成 実施主体:教育委員会、行政(公共交通担当)

町村内から地域公共交通で通える高校の情報や授業等の時刻表と地域公共交通の情報パンフを作成し、進路相談等で活用

●デジタル技術の活用 実施主体:交通事業者、行政(岐阜県・白川東白川)

予約方法の拡充や行動データの蓄積によるサービス改善を図り、充実したサービスの提供を行うとともに、ネット予約者の割引きを通じて、デジタルツールの普及にも繋げる。

●ホームページ・SNSのリニューアル 実施主体:行政(白川東白川)

誰にでも分かりやすく、利用目的に応じた対応が可能となる情報基盤の整備を行う。

●貨客混載事業の研究と実証 実施主体:交通事業者、町村内の宅配郵送業者、直売所、行政(白川東白川)

人と荷物を同時に輸送する仕組みを研究し、農作物の出荷等に地域公共交通が利用できるかを検証していく。

●恵那市コミュニティバス中野方線との接続 実施主体:行政(白川東白川、恵那市)

自家用車で移動する世代が行き慣れた地域との接続を確保するとともに、相互往来による観光振興に繋げる。

●白川町役場新庁舎完成に伴う運行改善 実施主体:交通事業者、行政(白川町)

新庁舎完成に備え、定期バスや予約制バスの運行について見直しを行うとともに、停留環境を整えていく。

●福祉有償運送の充実 実施主体:交通事業者、社会福祉協議会、行政(白川町)

福祉有償運送だけでなく、空いた時間に地域の困りごとにも対応できる仕組みを検討し、集落支援員制度を活用して運転手を雇用することで単独費投入のコスト抑制を図っていく。

●タクシーみたいなサービスの研究 実施主体:交通事業者、行政(白川町)

定期バスとオンデマンド乗合交通による組み合わせを主軸としつつ、運賃設定が高いタクシーのようなサービスを研究し実証を始めていく。移動範囲は域内とし、来訪者の利用も可能となるよう設定 ノーマイカー入学が推進されることも期待

基本方針②

地域公共交通の利用促進

白川町東白川村の地域公共交通の”あるべき姿”を多くの住民に知ってもらうこと、高齢者や高校生だけでなく他の世代でも利用が促進する取り組みを増やす、町村外からの来訪者でも利用しやすい環境を整えていきます。

《具体的に取り組む施策(手段)》

●おでかけツアーの企画と開催 実施主体:小中学校、地域、交通事業者、観光協会、行政(白川東白川)

小中学生、子育て世代、一般、高齢者の4区分にて、地域公共交通を利用したおでかけツアーを企画してもらい実施する。観光客を迎え入れる公共交通を利用したツアーを、観光協会とコラボして企画運営する。

●白川町と東白川村が往来しやすい仕組みづくり 実施主体:交通事業者(地域運営組織)、行政(白川東白川)

同じ域内で決まった場所のみの往来を、目的地まで行ける仕組みについて研究を始めていく。

●ふるさと納税を活用した利用促進 実施主体:交通事業者、行政(白川東白川)

離れて暮らす家族による支援を受けることで、利用を控えている人たちでも安心して利用できる仕組みを構築する。

●EV車を活用したチョコ乗りサービス 実施主体:企業、行政(白川東白川)

通常時は、出張所の公用車や地域内の”ちょい先”までのチョコ乗り車両として利用し、停電時には給電装置として利用。運転手は役場職員(副業)とし、インチャージは企業版ふるさと納税の仕組みを活用していく。

●ONEWAYレンタサイクル 実施主体:観光協会、行政(白川東白川)

電動アシスト自転車を拠点に配備し、ONEWAY(片道)利用が可能な仕組みを整備していく。

例)ハイエースに車載用サイクルキャリアを設置し、往路(目的地)を自転車で、復路は地域公共交通で移動できる仕組み